

黒潮

第149号

令和元年10月発行

和歌山県看護協会 会報

第50回 日本看護学会 -看護教育- 学術集会

紀の国から未来に翔けよう看護の心～人生100年時代に向かって看護教育を創造しよう～



2019年8月8日(木)・9日(金) 和歌山県民文化会館

CONTENTS

- 第50回 日本看護学会 -看護教育- 学術集会を終えて… 2～3
- 地区支部だより …… 4～5
- ふれあい看護体験 …… 6～7
- がんサバイバーのQOLの維持と症状緩和目的の治療の大切さ
(トピックス 2019) …… 8～9
- 地域連携のコーナー …… 10
- 医療安全数珠つなぎ …… 10
- 訪問看護ステーションだより …… 10
- 施設だより …… 11
- リレーエッセイ 友達の輪 …… 11
- 男の時短料理 …… 11
- Nursing Now キャンペーン「看護の力で健康な社会を！」… 12
- 和歌山県看護協会の動き …… 12
- プレゼント …… 12



生きるを、ともに、つくる。

公益社団法人 和歌山県看護協会

和歌山県看護協会会員数

令和元年9月24日現在 登録者数

会員総数	6,232名
名誉会員	2名
保健師	141名
助産師	233名
看護師	5,695名
准看護師	161名

発行所 公益社団法人 和歌山県看護協会

発行人 古川 紀子

〒642-0017 海南市南赤坂17番地 TEL.073-483-1005 FAX.073-483-1266

<http://www.wakayama-kangokyokai.or.jp>

第50回 日本看護学会 - 看護教育 - 学術集会

紀の国から未来に翔けよう看護の心

～ 人生100年時代に向かって看護教育を創造しよう～



第50回 日本看護学会 - 看護教育 - 学術集会を終えて

学術集会長 古川 紀子

第50回 日本看護学会 - 看護教育 - 学術集会は8月8日、9日の2日間、「紀の国から未来に翔けよう看護の心～人生100年時代に向かって看護教育を創造しよう～」をメインテーマに和歌山県民文化会館で開催しました。

猛暑の中、両日で全国から延べ約3,000名の皆様の参加があり盛会のうちに終了することができました。看護実践に根ざした口演発表105題、示設発表100題があり活発な意見交換がなされました。参加者の方からは、親切で丁寧な対応で大変気持ちよく参加できたとのこと言葉をいただきました。

本学会の準備委員、協力員の皆様はじめ全国からご参加いただきました皆様に深く感謝いたします。



第50回の記念
コングレスバック

開 会 式



古川学術集会長と福井学会長の挨拶で2日間の学会が始まりました。



仁坂和歌山県知事からは、Nursing nowのちらしを持って、ご挨拶をいただきました。



第1会場では、福井会長の記念講演終了後に、Nursing nowのちらしを持って、全員で写真撮影。

最前列中央では、仁坂県知事・古川会長も一緒に。





【 基調講演 】
坂本すが先生の講演では、感動して、涙ぐむ方も。



【 教育講演 】
看護にも教育にも相手を理解すること。そして、相手の特性に合った支援をすることが大切。



【 特別講演 1 】
熊川智子先生の講演で、パンダも人も日頃から変化を見てとることが大切だと。



【 シンポジウム 】
それぞれの立場から地域で生活する人々を支える人材をどのように育てるかをディスカッションしました。その中でも多職種の連携は大切ということが言われていました。



口演発表で質問中



示説発表の様子

学会に際して準備委員会を2018年5月に立ち上げ、毎月委員会を開催し会議を重ねてきました。本学会は第50回の学会であること、また、平成から新元号の年での開催であることから「節目」の学会であると考えました。そこで、本学会の目指すことは『看護の基盤となる普遍的な「心」を継続し、一方で、次世代に向かって深化する看護を「創造」するという2つの視点で討議し、双方が融合した発展的な新しい知見を得る場となる』としました。

このことからメインテーマは「紀の国から未来に翔けよう看護の心～人生100年時代に向かって看護教育を創造しよう～」と決定しました。プログラムの内容は、超高齢多死社会を見据えた看護職の役割と能力の向上を視点を「政策」、「教育」、「実践」の分野で講演をしていただき、また「地域包括ケアシステムの構築」を焦点に、人材育成についてシンポジウムを企画しました。さらに、和歌山県の看護職が一丸となって心をこめたおもてなしをして、参加者の皆様に「来てよかった」と思ってもらえる学会にしようという思いで取り組みました。お蔭をもちまして一般演題は205題いただくことができました。

当日は猛暑ではありませんでしたが、延べ約3,000人の参加者をお迎えすることができ、滞りなくプログラムを終えることができ安堵しました。実際に学会を開始して、会場の集客数と参加者の数が読み取れず、廊下で発表内容を聞いていただいた方もあり、参加者の皆様にご迷惑、ご不便をおかけしたことをお詫びいたします。

このように不備もありましたが、学会を無事に終了することができましたのは協力員の皆様のおかげです。早朝から遅くまで休む間もなく一日中動いていただき、気持ちよく学会の運営に携わっていただいた協力員の皆様のお力があってこそこの学会でした。参加者の皆様から「いい学会でした」「来てよかった」という声を頂戴しております。

協力員の皆様、また、学会に参加していただいた皆様、運営に携わっていただいたすべての皆様に心より感謝申し上げます。この度は誠にありがとうございました。



閉会式で挨拶

学術集会準備委員長
和歌山県立医科大学保健看護学部 藤本 由美子



地区支部だより



伊都地区支部

支部長 糴谷 博子

令和元年度和歌山県看護協会・和歌山県看護連盟地区支部合同研修会を、那賀地区支部・伊都地区支部合同で岩出市総合福祉センターにおいて開催しました。

研修会の講師には、東京医療保健大学副学長 坂本すが先生をお招きし「社会の期待に応える看護と看護政策」をテーマに講演をして頂きました。75名の参加があり大盛況でした。

医療・看護を取り巻く社会の変化の中で、私たち看護師に何ができるのだろうか?の先生からの問いに対し考える機会となりました。先生の講義を聴講し、「先生から力をもらえた」「看護の原点について考えることができた」等のアンケート結果でした。今後も会員の期待する研修会を企画する予定です。



那賀地区支部

支部長 藤本 美幸

2019年度地区支部集会および研修会を6月29日(土)に開催しました。「ジェネラリストの未来—特定行為研修制度が示すジェネラリストのキャリアデザイナー」をテーマに和歌山県立医科大学キャリア開発センターの関口紗代看護師にご講義いただき、参加者数は42名でした。

参加者からは研修制度を初めて知る機会になったなど好評でした。次回開催の老人月間研修会は、11月23日に今注目の「フレイル」をテーマに開催予定です。



和歌山地区支部

支部長 遠藤 栄理

6月1日(土)地区支部集会と第1回研修会を開催しました。年間テーマを「認知症」とし、第1回は米田恭子先生をお招きして「認知症とせん妄の違いに気づくために」について受講後グループ討議を行いました。

認知症患者さんと接する中での認知症?せん妄?を話し合い、認知症について正しくアセスメントできる力を養うことができた研修会でした。現在、9月7日(土)「まちの保健室」と10月26日(土)の第2回研修会を企画中です。



海南・海草地区支部

支部長 秦野 美智代

令和元年6月29日(土)に地区支部集会と第1回地区支部研修会を開催しました。

「簡単!!明日から使えるコーチング」をテーマに和歌山臨床コーチング研究会 理事 原隆亮先生をお招きし、講演していただきました。89名の参加がありました。

コーチングを体験し、やるきを引き出す関わり方や話の聞き方などコミュニケーションの技法を学び、看護に役立つ有意義な内容でした。





有田地区支部

支部長 松下 津也子

令和元年6月29日(土)、有田地区支部集会及び研修会を開催しました。研修会は「予防医学としての栄養学」と題して、和歌山県栄養士会副会長の岡井明美先生に講演いただき、61名の参加がありました。栄養学をとおして生活習慣病予防や健康寿命を延ばすための食生活について、各自食生活を振り返りながら講義を受け有意義な研修会となりました。

11月3日(日)には老人看護月間行事として、広川町健康まつりに参加を予定しています。



日高地区支部

支部長 小松 香世美

6月29日(土)に、看護協会・連盟合同の研修会を開催しました。テーマは、今が旬の「働き方改革って な〜に?」と題して、医療労務アドバイザーの雑賀忠仁先生にご講演いただき、54名の参加がありました。

参加者からは、基本的な知識の再確認や、職場の暗黙のルール等について考える機会となり良かった。また、働きやすい職場で生き生きと働けるように、職場環境の重要性と管理者としての役割・責任を改めて感じた等の意見があり好評でした。



田辺地区支部

支部長 鈴木 正代

7月27日(土)に紀南病院に於いて、報告会と第1回研修会を開催しました。「よく眠れる眠りのお話」を睡眠健康指導士の青木勝則氏にお願いしました。

「入眠3時間の睡眠が大切である」
「睡眠の質を上げるための一番手っ取り早い方法は睡眠環境を良くすること」
であると学習しました。

第2回研修会は、看護研究発表会です。毎年演題の募集が増えています。有意義な研修会を、役員さんの協力も頂き準備を進めていきます。



新宮・串本地区支部

支部長 岩本 千帆

5月11日(土)、イオン新宮店で「1日まちの保健室」を開催しました。一般参加者は80名、協力員数は10名で、血圧・体脂肪測定・健康相談を行いました。血圧は「朝、家で測ってきたよ」との声があり、自宅で測定する方が増えているようでした。協力員間では、情報交換の場となり「良かった」との意見がありました。

第1回研修会は、9月28日(土)テーマ「コーチングから学ぶ、心に寄り添う医療」を予定しています。



ふれあい 看護体験



誠佑記念病院

参加者の感想

ふれあい看護体験をさせていただいて、本当にありがとうございました。実際、病棟に行って担当してもらった看護師さんと会ってすごい優しく接してくれました。とてもうれしかったです。

ナースステーションに入ってみると「なんか私、邪魔なのかな」とか「仕事の妨げにならないかな」とか自分で思ったりしてました。そして実際病室に入ってみると、とても緊張して何もできなくて不安でした。けれど看護師さんが優しくエスコートしてくれてうれしかったし、普段じゃ経験できない事もできてよかったです。ずっと動きっぱなしで大変だったのに、気にしてくれてとてもうれしかったです。

本当にいい経験をさせてもらって、こんな自分でも看護師さんになれるのかな？とかとても不安ですが、がんばりたいと思います。本当にありがとうございました。
(貴志川高校・東 千聡)

施設側の感想

緊張と暑さで汗だくになりながらも、2人の患者さんの手浴や足浴を体験していただきました。患者さんの笑顔や、個性を考えながらケアを行うことで、少しでも看護のやりがいや楽しさを実感できたと思います。
(前田 一真)



まつい訪問看護ステーション

参加者の感想

普段高齢の方と関わる機会はないので、貴重な体験が出来たと思います。また、参加前は訪問看護とは何かよく分からなかったけれど、介護施設に行ったり、患者さんの家を訪問したりとても忙しく大変な仕事だと感じました。

しかし、高齢の方とふれあってお話してみると、大変な仕事だけどやりがいのある楽しい仕事だと思いました。老人ホームに訪問したとき、ある患者さんが私の言った事にすごく喜んでくれて、私もとてもうれしくなりました。その患者さんは話すことができなかったけれど、手を握って何を言いたいのかわかるような気がしました。参加前よりも看護師になりたいという思いが強くなりました。
(和歌山信愛高校・林 翔音)

施設側の感想

昨年は利用者宅で訪問看護師の仕事を経験していただきましたが、緊張する時間が多かったようです。今年はスタッフとの関わりから、デイサービスでの体験に移し、その後で有料老人ホームの重症度の高い方の訪問看護に同行し、在宅での点滴や吸引等の処置の実際を見ていただきました。物おじしない明るい2人でしたので、楽しく体験できたのかと思います。
(松井 由美子)



富田病院

参加者の感想

富田病院の看護体験に参加して、今までに体験したことのない貴重な体験ができて勉強になりました。普通では見ることでできない患者さんたちへの看護や、どのように患者さんに接したら患者さんたちが安心して病院生活を送れるかなど、患者さんの立場になって考えることで将来私が看護師になったときのイメージが膨らみ、より看護師になりたいという思いが強くなりました。富田病院の看護師の方々のように患者さんに寄り添い、病院で快適に過ごせるよう手助けできるような看護師になりたいです。

今回のふれあい看護体験で看護師になるための勉強に対するモチベーションが高まったので、参加させて頂き本当に良かったです。

(開智高校・楠井 夏琳)

施設側の感想

最初は緊張のためか、表情も硬く、挨拶の声もなかなか出ませんでした。徐々に出来るようになりました。色々なケアの見学や血圧測定、車椅子乗車を体験し、大変だがやりがいのある仕事と感じてもらえた様です。
(中村 郁代)



訪問看護ステーションキタデ

参加者の感想

今回、実際に患者さんのお家で訪問看護の体験ができ、とても貴重な経験ができたと思います。患者さんの足を洗ったり、現場を見学したり、初めてのことが多くドキドキもしましたが、家で看護ができる訪問看護のすばらしさも感じました。特に印象に残っているのは、患者さんがリハビリで起きあがった時、顔色がさらに明るくなっていったことです。

私の夢は、沢山の人の笑顔にできる作業療法士となることです。病院の中で活躍するだけでなく、訪問看護のスタッフとしても携わることができることを知り、将来の夢の選択肢がより広がったと思います。また、スタッフの方々が患者さんに対して、沢山の声をかけていることも印象的で、医療の現場ではコミュニケーション力も必要不可欠となっていくと思うので、これから努力していきたいと思っています。（日高高校・稲田 優）

施設側の感想

利用者様に協力していただき、足浴体験をさせて頂きました。看護師と一緒に実際にさせてもらい、怖々ながらも良い体験になったようです。また、主介護者の娘さんは熱心に介護されている方で、訪問看護の必要性や介護での工夫など熱心に話して下さいました。続けてリハビリが入ることになっており、興味があったようなので、15分ですが見学してもらいました。初々しい学生さんと関わらせて頂き、私達も初心を思い出させてもらえた気がしました。貴重な時間をありがとうございました。（清水 千聡）



田辺中央病院

参加者の感想

初めて体験したことばかりでとても楽しかったです。最初はどんなことをするんだろうかとか不安も少しあったけど、看護師の方達がとても優しく指導してくれたので、不安も消えてたくさん学ぶこともでき、楽しいと思うことができました。

直接、患者さんに関わって、血圧なども計らせてもらったのもとても良い経験になりました。血圧などを計らせてもらって、「頑張ってるね」とか「ありがとう」と言ってもらえてとても嬉しかったです。

今日の体験で、より看護師になりたいという思いが強くなりました。ありがとうございました。（神島高校・寺本 彩乃）

施設側の感想

高齢者に関わるのが初めての高校生2名の参加でした。最初は緊張していましたが、患者さまも高校生と会話することで喜ばれ、緊張も和らぎ、バイタルサインを測定したりしました。体験を通じて看護師への一歩になればと思いました。

（谷 津也子）



那智勝浦町立温泉病院

参加者の感想

看護師が実際に働いている様子や、病院の雰囲気を見ることができてとても良い体験になりました！

聴診器や点滴の道具を初めて触ることができて楽しかったです。看護師が働くイメージがより明確になりました。貴重な体験をありがとうございました。

（近畿大学附属新宮高校・河邊 桃茄）

施設側の感想

病院見学が初めての学生もいました。実際に患者さんと接する看護師の姿を見て、「こんな看護師になりたい」「看護師のイメージができた」と感想がありました。将来、看護師になった姿を楽しみにしています。（岩本 千帆）



～ 骨転移がある患者との関わりから学んだ事 ～

紀南病院 緩和ケア認定看護師 越本 世津

私は現在、緩和ケアチーム（以下、PCT）の一員で放射線治療室の専任看護師として活動しています。

近年、がん治療の発展により患者の生存率が伸び、がんと長期間に渡り共存する人々が増えています。国立がん研究センターの地域がん登録5年相対生存率のデータからも骨転移の多い乳がんや前立腺がんの生存率が高くなっていることがわかります（下表参照）。この期間の

延長が骨転移の増加および、痛みなどの苦痛をもたらしていると言われていています。しかし、放射線治療（以下、RT）を受けるがんサバイバー（以下、患者）に日々関わり、骨転移を早期発見し、早期治療を開始することで、体動時痛、病的骨折や脊髄圧迫による麻痺（骨関連事象）などの発生を抑えることができ、苦痛緩和に繋がっていると日々実感しています。

全部位と部位別の5年相対生存率の推移（%）

診断年	全部位	乳がん	前立腺がん	肺がん	腎がん	甲状腺がん
2000～2002年	56.9	87.7	84.6	29	65.4	92.1
2003～2005年	58.6	89.1	93.8	29.7	65.7	92.2
2006～2008年	62.1	91.1	97.5	31.9	69.1	93.7

国立がん研究センター <http://ganjoho.jp>

骨転移の基礎知識

1. 骨転移（転移性骨腫瘍）とは

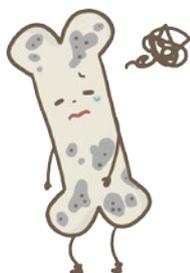
体の他部位に生じた悪性腫瘍が骨に転移すること。
乳がん、前立腺がん、肺がん、腎がん、甲状腺がん、悪性黒色腫などに多い。

2. 種類

溶骨型転移、造骨型転移、混合型転移、骨梁間型転移
好発部位：脊椎が最も多く（血行が豊富な為）、次いで骨盤、大腿骨、上腕骨、肋骨
溶骨型転移は骨が溶ける為、骨強度は低下し圧壊、骨折を起こしやすい。

3. 身体的症状

体動時痛や骨折による支持性の低下、脊髄圧迫による麻痺、高カルシウム血症
骨転移が生じるとADLは突然低下する。高齢者では長期安静臥床により、肺炎、尿路感染、認知症、関節拘縮、廃用性症候群、深部静脈血栓症などを併発することもあり、予後に大きく影響する。



4. 治療

緩和的照射：疼痛制御、骨折予防、脊髄圧迫などの神経症状の改善・予防
薬物療法：骨修飾薬、抗がん薬、ホルモン薬の投与など、
整形外科的治療：免荷や安静度の指示、装具の作成、手術

患者にとって最も苦痛となるのは、脊椎の病的骨折により麻痺を発症する事です。今回、脊椎の多発骨転移と診断され、骨折と麻痺予防の為の2ヶ月間もの安静臥床を乗り越え、病的骨折を起さず、生活されている患者を紹介します。

事例紹介

Aさん 40歳代、乳がんの女性

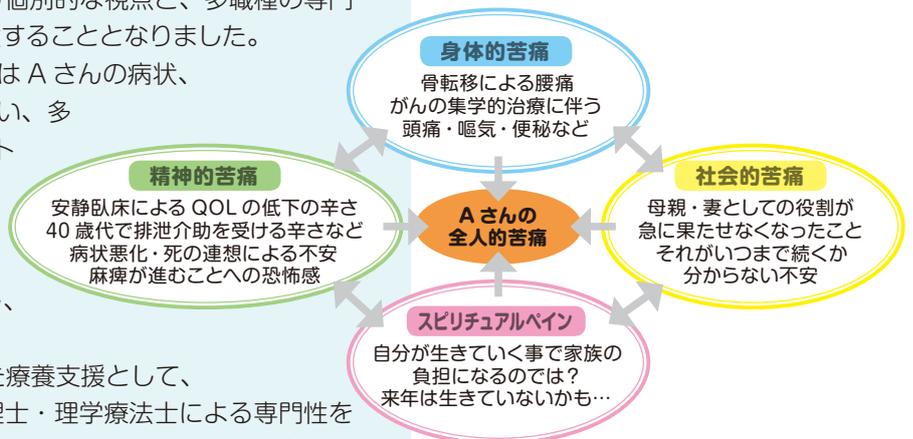
腰痛が強く、PCTに紹介された時は、すでに脊椎多発骨転移がありました。緩和的照射、骨修飾薬、抗がん薬の投与が開始されましたが骨融解は徐々に進行していました。整形外科医からは脊椎の病的骨折による麻痺のリスクが高いため安静臥床を指示されました。Aさんの全人的苦痛（図1参照）への関わりはより個別的な視点と、多職種の専門性を発揮した支援の必要性を経験することとなりました。

定期的PCTカンファレンスではAさんの病状、全人的苦痛など、情報共有を行い、多職種が協働し苦痛をアセスメントし、病棟ラウンドに臨みました。病棟スタッフとカンファレンスの内容を再検討し、緩和的治療内容や療養支援について討議し、実践につなげていきました。

Aさんの安全、安楽を重視した療養支援として、医師・看護師・薬剤師・臨床心理士・理学療法士による専門性を発揮したケアの一つ一つは、Aさんにとって、身体的・精神的な安心につながりました。

看護師の介入としては、Aさんが安全、安楽に治療を受ける事が出来るよう症状マネジメントを行い、精神的、スピリチュアルな苦痛については辛さに寄り添いながら傾聴を行いました。その一つとして、麻痺が起こることへの恐怖感を訴えるAさんに対し、安全に日常生活動作の援助をする事、治療を受ける事で骨は徐々に硬化していく事を説明しました。直接ケアをするスタッフに対しては、気持ちの辛さを感じていないかなど積極的に声掛けを行うようにしました。

2ヶ月間もの安静臥床が解除となった時は家族と共に喜んでおられました。医療スタッフも病的骨折を発症せず骨硬化が得られたことに安堵しました。それから約3年経ちましたが、現在も元気に外来で治療を続けておられます。



(図1) Aさんの全人的苦痛



▲ 今年導入された放射線治療機器 (トモセラピー)

PCTはAさんとの関わりを通じて、安静臥床で辛い思いをする患者を一人でも少なくしたいと強く思い、放射線科と協働し、骨転移の早期発見、早期治療に取り組んでいます。このような取り組みは骨転移患者のQOLを維持する為に、継続する必要性を感じており、がん患者に携わる看護師全員で実践につなげることができるようベッドサイドでのケアや研修を通じて共有していきたいと考えています。

このような経験を糧に、緩和ケア認定看護師活動として、苦痛のスクリーニングや日々のケアを通じて患者一人ひとりと向き合い、医療者はもちろん、地域の方々に緩和ケアの大切さについて啓蒙活動を続けてまいります。

新宮市立医療センター

看護副部長兼地域医療連携室師長 坂本 美弥



新宮市立医療センターは、地域医療支援病院、災害拠点病院、救急告示病院、がん診療連携推進病院などの役割を担う、304床（一般病床250床、地域包括ケア病床50床、2類感染症対応病床4床）を有する公立病院です。

地域医療連携室は、平成15年に開設され、16年目を迎えた今年4月には神経内科部長を室長に迎え、新体制がスタート致しました。構成員は、看護師長1名、医療相談員（MSW）3名、事務員2名の6人体制です。

主な業務内容は、

1. 紹介患者さんのFAXによる診療・検査予約受付
2. 他病院への紹介予約申込
3. 地域医療連携室紹介患者さんのFAXによる来院・入退院報告
4. 紹介患者さんの返書管理
5. 地域の医療機関、施設、在宅サービス事業所、訪問看護ステーション、行政などからの問い合わせ、相談対応
6. 在宅医療相談窓口（外来・入院患者さんの医療、看護、療養、福祉、その他の相談）

7. 退院支援
8. 開放病床共同診療のご案内、開放病床入院相談対応、登録医受付
9. 地域の医療機関、施設への当院の各種ご案内、地域との連携、広報
10. 地域の医療機関、施設、在宅サービス事業所、訪問看護ステーションとの研修会、企画・運営
11. 地域医療支援病院運営委員会の開催 等です。

当センターは和歌山県と三重県のほぼ県境に位置し、奈良県の一部を含む広域の医療圏を持ちます。その背景は高齢化と過疎化に加え、交通事情も悪いことから、患者さんやご家族を支える医療職と介護職および行政が一体となる支援体制の整備が急務と考えています。そのため、地域の基幹病院の地域医療連携室として国が推し進める「地域包括ケアシステム」がこの地域においても効果的に機能することを支援できるように、模索しながら日々活動しております。

医療安全

数珠つなぎ

医療法人千徳会 桜ヶ丘病院



看護部 林 好加

当院では多職種により構成された医療安全推進部があり、インシデント内容の把握をもとに2回/月の院内ラウンド、医療安全通信の発行など、様々な活動を行っています。早急に対応が必要な事例に対しては医療安全検討会を臨時で開き、できるだけタイムリーに対応できるように努めています。

スタッフ1人1人が医療安全に対する意識を高く持ち続けられるよう関わっていきたく思います。

次回号に紹介させていただく方は、
和歌山県立こころの医療センター 田中 秀之 様 です



有田市立病院 訪問看護ステーション

管理者 古川 嘉代

当ステーションは、みかん・太刀魚が名産の有田市にある有田市立病院に併設しています。平成19年に、当時胃瘻造設の方の在宅支援を目的にスタッフ3名で開始し、その後平成27年10月にリハビリ部門を設立、現在では看護師10名・理学療法士2名・事務1名の計13名で在宅医療を担うべく日々汗をかき頑張っています。また「地域医療に貢献する」という当院の理念から、平成30年6月に有田川町にサテライトを設置し、金屋や清水方面への地域拡大も積極的に行っています。

当ステーションの強みとして、リハビリとの協働の元、質の向上を目指し、特定行為研修を修了した看護師をはじめ、認知症、呼吸療法、栄養サポート等のリソース看護師が活躍し、さらに人生の最終段階の意思決定において、本人や家族の想いに添えるよう取り組んでいます。

これからも「いつも笑顔で訪問します」をモットーに、スタッフ一同のこもった医療の提供に貢献していきたくと思っています。

訪問看護
ステーション
だより



施設だより

医療法人南労会 紀和病院

看護部長 池田 亜矢子

当院は1984年、地域医療および労災医療を行うために、当時58床の医療施設として開業しました。地域医療の一翼を担いつつ、幾多の増改築を繰り返しながら現在、二次救急医療を含む急性期病棟から医療療養型病棟、また緩和ケア病棟などを増棟し、急性期から慢性期まで一貫した280床を有するケアミックスの病院として医療機能を充実させてきました。また、健診事業や在宅介護サービ

スといった地域の医療福祉課題にも取り組み、人工透析や緩和ケア、乳がん治療にも注力しております。

当院基本理念の「命の輝き(QOL)を大切にする医療・介護を行う」ことを目標に掲げ、職員の教育にも重点を置き、地域にしっかりと密着し、連携する医療機関として信頼していただけるよう、この地域になくてはならない病院として頑張っております。そして私たち看護部は「自分の家族が安心して入院できる病院でありたい」を目標に、日々変化が多い紀和病院で常に自己研鑽し、その努力を柔軟に日々の看護に反映することが大事であると考えています。

さらに、院外での救護班活動などが定着するなかで、

地域との関わり方でもたくさんの変化が起きています。なかでも、今年で5回目の開催となったイベント「真夏の祭典！紀和カーニバル」です。医療現場への理解を深めてもらう目的で病院全体を開放し、夏休みのお子もたちが点滴や包帯巻き、心臓マッサージ、手術室体験ツアーなど、「キッズ医療体験」として地域の方約600名が参加され、命の大切さや病気に

ならないことの大事さを改めて知ってもらう機会になってほしいという思いで取り組んでおります。

今後もこれまで以上に住民から信頼される看護部であり続けるよう努力を重ね、「やわらかい態度で寄り添える看護師」「自分で考え、行動できる看護師」「チームワークを大切に行動できる看護師」という目指す看護師像にむかって、知識・技術はもとより、患者さん、ご家族の声にきちんと耳を傾け、想いに気付ける人間性豊かな看護師の育成に取り組んでまいりたいと考えています。

もちろん私自身も日々の変化に負けじと常に前進して参りたいと思っております。

リレーエッセイ

友達の輪

Vol.62

医療法人曙会 和歌浦中央病院

平野 千幸



2019年3月に特定行為研修を終了してきました。患者様の一番近くにおいて、一番長い時間関わりを持っているのは看護師です。看護を通して、疾患に応じた観察を行い、患者様にとって安心・安全・安楽とは何かを考え、今回の学びを活かし特定行為を行っていきたくです。また、看護の質向上のために自己研鑽に努めていきたくと思います。

今回は、海南医療センター
浅尾 貴哉 さんをご紹介します。

第11回 男の時短料理

「チンゲン菜としめじの和えもの」

白浜はまゆう病院

十河 信之

材料(2人分)

- チンゲン菜 2株
- しめじ 1/2株
- ハーフベーコン 1パック



作り方

- | | | | |
|--------|------|-----|------|
| ボン酢 | 大さじ2 | ごま油 | 大さじ1 |
| 顆粒和風だし | 小さじ1 | 白ごま | 適量 |
| 水 | 大さじ1 | | |

1. チンゲン菜はよく洗い、根元を切り3cm幅に切る。
2. しめじは石づきをとり、ほぐす。
3. ベーコンは1cm幅に切る。
4. 耐熱皿(ボウル)に、1.2.3.を入れ、Aをかけてから、ラップをかけて600Wのレンジで3分加熱する。

Nursing Now キャンペーン 「看護の力で健康な社会を！」

2020年
末まで

ナイチンゲール生誕200年となる2020年に向け、看護職への関心を深め、地位を向上することにより、人々の健康の向上に貢献することを目的に展開されている世界的なキャンペーンです。英国の議員連盟が活動をスタートさせ、世界保健機関（WHO）および国際看護師協会（ICN）の賛同の下、英国のチャリティ団体であるバーデット看護信託が事務局となり、世界的に広がっています。

世界では、保健医療制度や人々のニーズが大きく変化しています。看護職がこの変化に対応し一層活躍するには、看護職が適切に評価されるよう、さまざまな条件や環境を整える必要があります。キャンペーンを通じ、看護職が持つ可能性を最大限に発揮し、看護職が健康課題への取組みの中心に立ち、人々の健康の向上に貢献できるよう行動します。

日本国内でも看護系団体が多く参加する中、日本看護協会は重点政策として、①看護基礎教育制度の改革の推進 ②地域包括ケアにおける看護提供体制の構築 ③看護職の働き方改革の推進 ④看護職の役割拡大の推進と人材育成一を掲げ取り組んでいます。



和歌山県 看護協会の 動き

令和元年度 第4回理事会

日時 / 令和元年8月28日(水)
13:00~16:30
場所 / 看護研修センター 会議室1

I. 【協議事項】

- (1) ナース章の推薦について
- (2) 確認書（欠格事由について）
- (3) その他

II. 【報告事項】

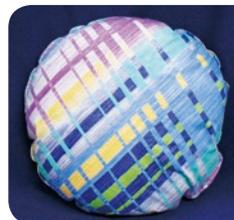
- (1) 日本看護協会理事会報告
- (2) 日本看護協会主催会議報告
- (3) 担当理事報告
- (4) 県内関連団体会議参加報告
- (5) 会員数について
- (6) その他

第34回 プレゼント!

はがきに ①氏名 ②会員番号 ③郵便番号・住所 ④電話番号 ⑤勤務先名 ⑥本紙へのご意見・ご要望を明記の上、11月25日(月)までにお送りください。

(消印有効・1人1通のみ)

抽選の上、当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。



「足まくら」
または
「クオカード」
1,000円分

5名様に!
どちらか1つ
当たります!

宛先 〒642-0017 海南市南赤坂17 和歌山県看護協会 「10月号プレゼント」係

プレゼント 応募者の 声

- トピックスで「ACP」が取り上げられていました。とても興味をもてました。患者・家族をサポートすることはむずかしいと感じました。

東洋羽毛の 無料!! コーヒーサービス

東洋羽毛では、お世話になっている方々に無料コーヒーサービスを行っております。院内での師長会議・主任会議・ラダー研修会・研究発表会・勉強会等、地域や支部での看護部長会・看護研修会等での休憩時にホッと一息つきませんか？

どんな所でも無料で出張サービスさせていただきます



0120-88-2104



片隅にちょっとだけ、企業PRとしてお布団を置かせて頂いております。ご購入にも応じます。

東洋羽毛関西販売株式会社

お気軽に御利用ください。